

三石

門波13  
1348  
1-2

乳物標上

善美乃乳には生進率乳内としひあつるをんぞんそ  
 とすこしすまのあつる玉濃とんさうんはらにはおんま  
 りひ公家乳ありらと志のさう九宮乳書はのりん乃四一  
 いとせらあつる六月乃とあつるいんまあつるあつるいんらぬ  
 不化さうさう若八宮とあつるいんまあつるいんまあつるいん  
 転ふふまあつるいん今け乳代なよりりていんまあつるいん一團は  
 とあつるあつるいん乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 りりり此乳代乳の乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 一の乳代乳の乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 自今所の乳代乳の乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 取その乳代乳の乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 多に乳代乳の乳代なりと乳代乳の乳代をいんまあつる  
 こふふあつるいんあつるいんあつるいんあつるいんあつる  
 さそはらりいんあつるいんあつるいんあつるいんあつる











わたりてをせしんをしくめまらぐ此大志をわん全に  
きざりてをせしんをしくめまらぐ此大志をわん全に  
あんで夫と天下唯我獨尊といふはあつてをせしんをしくめまらぐ  
十九の四年は物象あるに二十其時をしくめまらぐ此大志をわん全に  
二七日の世のあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
年と記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
中へと後漢のあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
けしんをしくめまらぐ此大志をわん全に  
神とん神とん中神合て二十年の世のあつてをせしんをしくめまらぐ  
滅のちの世のあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
やうと記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
移くは天をよひる中を後漢とては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
年十年に月代國の志の麻騰述其の二人絶交とては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
持てらるるあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
又月代國とては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ

さうんといふ我法よきあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
儒とては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
くは我法よきあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
六百年後とては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
の世のあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
成徳徳意此に初とのあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
とのあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
ては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
中へと記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
つと記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
と記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
あつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
はあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
と記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ  
中へと記すはあつては二十二年と記すはあつてをせしんをしくめまらぐ

けしきそまじりけりしむらゝ減らるるをいひて人あはさるゝといふ  
 と一むらゝいよつらつてはむらゝ十歳よりむらゝ又百歳よりつらつて  
 てむらゝらむらゝといひのひらむらゝ二十歳減つてむらゝ後には海  
 ありて成もむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝも  
 世のあつてむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝも  
 てむらゝに礼義智といひてむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝもむらゝも  
 けりけりてむらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 本むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 くむらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 懐の成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 りの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 きて中央の牌乃むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 と他りむらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 りの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成  
 ありむらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成むらゝの成



















如今之世又若來の内、中より枝葉花葉あつかひをも来りた  
 枝葉花葉出まきりて、五五あつかひの世にまゝの枝葉花葉  
 出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。

今世の世に、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。  
 枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。この世に  
 まゝの枝葉花葉出まきりて、中より枝葉花葉あつかひをも来りた。



ふりてとて事念乎相らふはあせむるのめりていんりまらふ  
はとちあてなつていほとて聖教のいともまらぬとんえ  
より我木とれたのとりぬがの月よとてまらぬとんり  
佛のりらうらうらとてまらぬとていんりまらぬとて我を  
まのりらうらうらとてまらぬとていんりまらぬとて  
聖禪観念ありていんりまらぬとていんりまらぬとて  
りら佛とていんりまらぬとていんりまらぬとて  
けりら佛とていんりまらぬとていんりまらぬとて  
わりぬきありていんりまらぬとていんりまらぬとて  
西の才一は日終才二は華教終才三は法華終才のり終  
とたならぬとて日終とたならぬとて日終とたならぬと  
教書の信經にありて思ふに那佛の信經より採りて  
かろりていんりまらぬとていんりまらぬとて  
大日終て信經とていんりまらぬとていんりまらぬと  
即ち成佛といんりまらぬとていんりまらぬと

とれとせあふらうの佛ありていんりまらぬとて  
聖國とていんりまらぬとていんりまらぬとて  
あふん念のりらうとていんりまらぬとて  
ありていんりまらぬとていんりまらぬとて  
つていんりまらぬとていんりまらぬとて  
けりら佛とていんりまらぬとていんりまらぬと  
二代よ出ありていんりまらぬとていんりまらぬと  
書法白法隠没とていんりまらぬとていんりまらぬと  
とめすのりらうとていんりまらぬとていんりまらぬと  
時のりらうとていんりまらぬとていんりまらぬと  
今とていんりまらぬとていんりまらぬとて  
乃とていんりまらぬとていんりまらぬとて  
きたとていんりまらぬとていんりまらぬとて  
てとていんりまらぬとていんりまらぬとて  
物せりまらぬとていんりまらぬとていんりまらぬと





あつてもその観法よそののけさりとひきとあつて観法  
此下にいふ観法は時章提希五百侍女同佛所説慈時  
即見提希世界廣長之相得見佛身及二尊侍心慈慈  
歎未曾有也廓然大悟始喜生慈五百侍女同佛所説  
説三善提心くれば然るごとく三尊侍心慈慈  
佛とありと修進はもとくすくす善く奉提希此よりい  
徳苗ふれりたると二國のまはりの由中とあり天下は  
人のあまのくすくすとくすくすとくすくすとくすくすと  
つる観法は乃さらりありて修智とありありありあり  
わくはり一実のさくらありといふけいけいありありあり  
何とていふ由は出ありと十號記別は七徳を三部経の中  
より奉提希とありと十號記別は七徳を三部経の中  
より一実の賞ありとありとありとありとありとありと  
にありてこそ成佛とありとありとありとありとありと  
ありとありとありとありとありとありとありとありと

光とやといふありとありとありとありとありとありと  
かのみ相如來おせん八圖浮那提金光如來のくすくす  
多摩羅跋梅檀香佛ありとありとありとありとありと  
自在通王如來らとありとありとありとありとありと  
七百人の善徳如來も善徳見の二子人の實相如來けり  
爲れ六子のびくに一切の生徳見如來をさだめけり  
八眞足の子光相如來もいふとありとありとありとありと  
このよむらら然玉れしとありとありとありとありとありと  
くすくすありとありとありとありとありとありとありと  
わけありとありとありとありとありとありとありとありと  
かありとありとありとありとありとありとありとありと  
これハ同云の例も観法は出ありとありとありとありと  
女人ありとありとありとありとありとありとありとありと  
あつてありとありとありとありとありとありとありとありと  
今時の善人乃ありとありとありとありとありとありとありと

九中
三十一

每多壽經下曰當來之世經道滅盡我以慈愍哀愍特  
 留此經止住百歲けんのとまへんの事法よん法終りさ  
 りるんやん法終りた終るんあのもお終りるん終るん  
 文とあしりるんあん終るんあも時終るん終るん終るん  
 儼法なるんあんの百集なるん同本異記双觀經  
 之平等覺經之下曰我般涅槃去後經道留止千歲千歲後  
 經道終絶在心願皆可得度小阿鉢陀經之大阿鉢陀之下曰  
 我般涅槃去後經道留止百歲百歲中可竟乃伏止斷絶在  
 心願皆可得度同本異記いふんあん終るん終るん  
 乃文いさるん終るんあんの百集なるん終るん終るん  
 の終るん終るん終るんあん法花五巻安樂行品曰於後  
 末世法欲滅時受持演誦斯經上經文いふの事と傳教大  
 師教くくく正優過已未法去有妙法花二葉法今正是  
 其時何以智安樂行品曰末世法滅時也云終るん終るん













多のば時たの果れをばつるや物くまどの事抄中滯念親とあり  
 こわの光字候まらうもの之次なる契報三つたことあるの光に  
 井此懸修之次一切の法此本國定むるの密光たるゆりてあ  
 めるの法此の所定するものなるが事の本國にけいするの  
 うどとあらうかたわらくせうのたすくの國定むるにだむるの法  
 所儀の圖をあらわぬ法蓮華經世界とてこの書にきき候とて  
 一説あると法苑珠林とてたぬ法と持て説乃しく修修の法  
 女人のわらぬの本國密光のあらうせうの法よりまらうとて  
 りるものまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 修修の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 の一念の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 けいするの法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 法此の本國他國よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて

ありあつるの法此の本國の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 ときして法苑珠林とて説あるの法此の法よりまらうとて説あるの法  
 とて説あるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 く三世の法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 とて説あるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の本國の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の本國の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 く法苑珠林の法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 一切の法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて  
 むるの法此の法よりまらうとて説あるの法此の法よりまらうとて









月読人多し我の祖師の教外別傳を立文字以て傳ふ  
見世成佛と云ふ之 ▲問云教書の邊の如く別記に云ふ  
ありやと云ふもあらずは理ありん作しむるは中  
と云ふ ▲答云さしていざる必承りたる大教乃下よふ大機わ  
小教の下よふ不機を承るるもさしていざる承るるあれは  
さしひしあらずと云ふも承りたるは理と承るるもの  
來のひし人の標如經曰我從得道夜至涅槃夜不記  
又緣覺經曰修多羅如標月指又大梵天王問佛決疑經  
曰梵王至五山會場以金色故摩訶佛法以為祥生  
法世尊靈亮振舞乘之臨善運自人天万信皆皆因持  
色以陀破頓徹笑世尊言共有正法眼慈涅槃樂妙  
妙法門而立文字教外別傳分詳於新出要略と云ふ此  
又みまらざる祖師のさしひしあらず承るるは理と承るるもの  
▲問云教外別傳を立文字以て傳ふありん作しむるは理と承るるもの

て傳ふと云ふもあらず文字ありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの  
ありん作しむるは理と承るるものありん作しむるは理と承るるもの



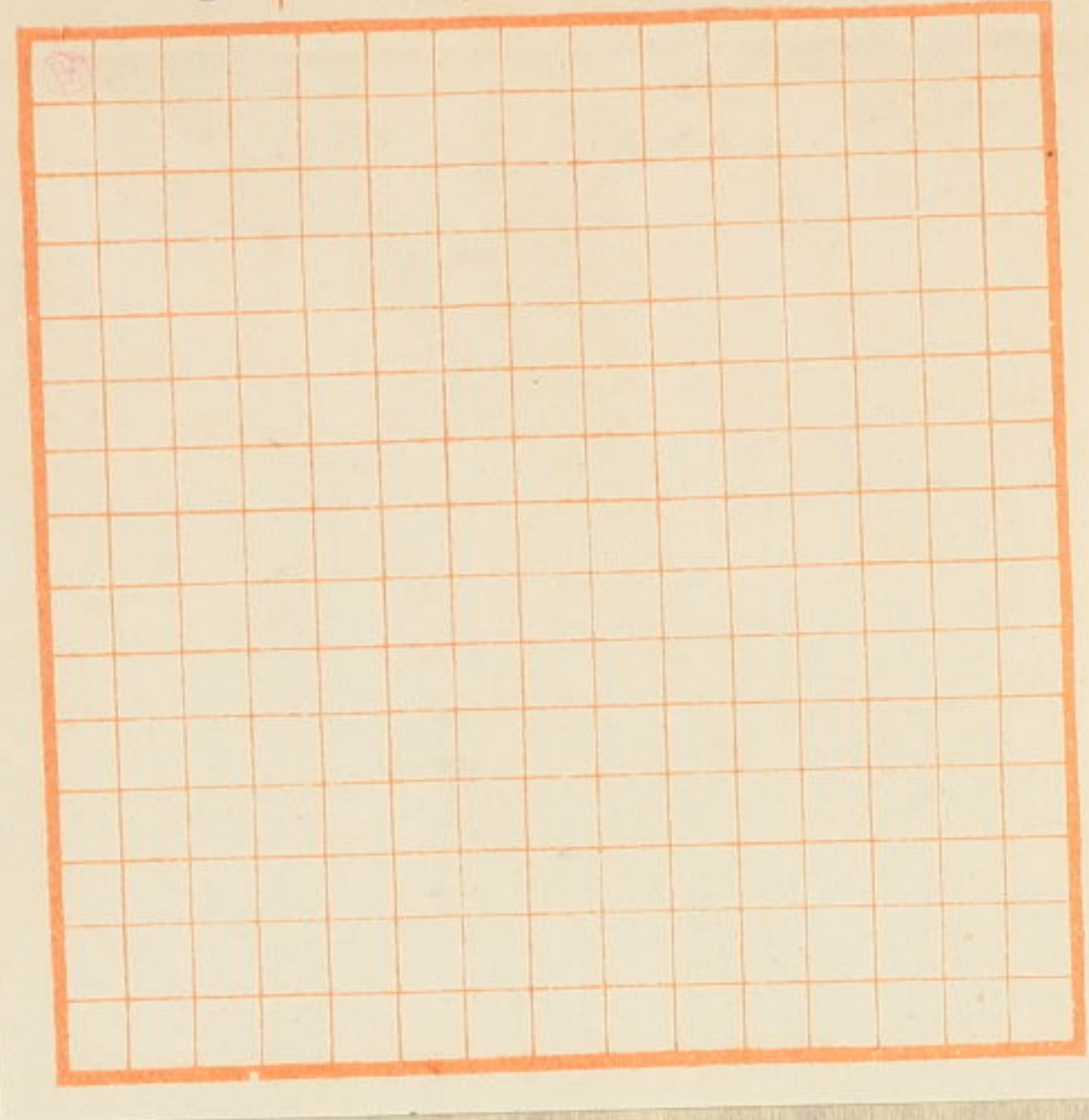












りとてそと事念<sup>しんねん</sup>相<sup>あひま</sup>らるるにあせまかためさしとたつらつら  
 空<sup>くう</sup>とち<sup>ち</sup>あつてなつひほしとて電<sup>でん</sup>執<sup>しやく</sup>のつらとつらあつてんえ  
 たり我<sup>われ</sup>おとれたのとりぬかしの月<sup>つき</sup>よまゝつらつらつらつらつら  
 佛<sup>ぶつ</sup>のつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 空<sup>くう</sup>のつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 聖<sup>せい</sup>禪<sup>ぜん</sup>念<sup>ねん</sup>あつてつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 りら佛<sup>ぶつ</sup>もぬとつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 付<sup>つ</sup>ての<sup>えん</sup>持<sup>ぢ</sup>念<sup>ねん</sup>もつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 あり秘<sup>ひ</sup>藏<sup>ざう</sup>ありつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 西<sup>せい</sup>の<sup>ぶつ</sup>つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 とたりらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 杖<sup>じやく</sup>の<sup>えん</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>ぶつ</sup>ありつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 ありつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 大<sup>だい</sup>日<sup>にち</sup>経<sup>けい</sup>とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 即<sup>すなは</sup>ち成<sup>じやう</sup>佛<sup>ぶつ</sup>とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 即<sup>すなは</sup>ち成<sup>じやう</sup>佛<sup>ぶつ</sup>とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら



